



MEDICAL OFFICE

医療の最前線からのワンポイントアドバイス

医学部 専任講師（皮膚科学）

たにかわあきこ
谷川 瑛子

その「ホクロ」、大丈夫？「ダーモスコピー」で確認しましょう

探せば誰でも1つや2つは見つかる「ホクロ」（色素細胞母斑）。ふと、「このホクロは大丈夫かしら」と思ったことはありませんか？

「ホクロ」か、ホクロの癌と言われる「メラノーマ」（悪性黒色腫）かの鑑別は大変重要です。少し前まで、「黒いホクロ」、「黒っぽいシミ」は、肉眼または拡大鏡で観察して判断が難しい場合は手術、病理検査を経て良性か悪性の判断をせざるを得ませんでした。2006年、皮膚科領域で「ダーモスコピー」という新しい検査法の登場により、「ホクロ」の診断と治療は大きな転換期を迎えました。

ダーモスコピーとは、「ダーモスコピー」というハンディタイプの特種な拡大鏡を用いた検査方法であり、痛みは全くありません。その基本原理は特殊な拡

大鏡に超音波検査用のゼリー・偏光フィルターなどで光の乱反射を除き、ハログレインランプ、白色発光ダイオードを用いて病変部を照らしながら、皮膚病変を10〜30倍まで拡大し、真皮の浅いところまで透視して皮疹をより仔細に観察することができる診断器具です。

ホクロとメラノーマはダーモスコピーでそれぞれ異なる特徴的な所見を呈することが明らかにされた結果、現在皮膚科では短時間で目の前にあるホクロまたはシミが、今すぐに治療した方が良いもの（悪性）か、しばらく通院して定期的経過観察で良いのか（疑わしい）、または全く心配のないもの（良性）かを判断することができるようになり、それに適した治療を選択しています。ダーモスコピーの普及はメラノーマの早期発見で極め

て重要な役割を果たし、同時に「黒いホクロ」の不必要な手術を回避することを可能にしました。その他基底細胞癌、脂漏性角化症、血腫などメラノーマとの鑑別が必要な疾患だけでなく、多くの皮膚疾患の診断にも活用されています。

皮膚は人体の中で最大、かつ自分の目で見える「臓器」です。自分の顔や体を時々観察し、特に忘れがちな手のひら、足の裏、外陰部、手足の爪も合わせてチェックしておくことをお勧めします。気になるホクロ、シミまたは「爪の黒い線」がある場合や、ホクロやシミに対しレーザー治療を勧められた時、ぜひ一度皮膚科専門医を受診して、「ダーモスコピー」で確認しましょう。